

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270300546		
法人名	有限会社 グループホームふるさとの家		
事業所名	グループホーム「城下」にしありえ	ユニット名	
所在地	長崎県南島原市西有家町龍石1417番地1		
自己評価作成日	2024年 8月 27日	評価結果市町村受理日	2024年 10月 15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topijeyosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2024年 9月 19日	評価確定日	2024年 10月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

見渡す限り緑と山々に囲まれた自然の中で過ごすことができ、近隣住民の方のご協力も得ながら生活しています。コロナ渦で遠くに外出できない分、季節を感じられるような行事を行っています。夏祭りを子どもたちと一緒にしたり、庭でのバikingや近くの公園にピクニックに出掛けたり、活動的な日々を送っています。利用者の皆さんと一緒に畑で野菜を作ったり、時期になると山菜採りや竹の子堀りも一緒に行っています。一人ひとりのご利用者様の思いや気持ちにあった生活ができるよう職員一同統一したケアを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

グループホーム「城下」にしありえは2000年に開設している。2024年度は浴室の改装が行われ、より安心安全に入浴できる環境が整えられた。ホームの敷地は広く、青空と山々を眺めながら、庭でカレー等を食べられたり、職員が演奏するアコーディオンの音色を楽しんでいる。畑の野菜（芋、ナス、ゴーヤ、オクラ等）も育ち、法人内の放課後デイサービスの子も達が芋ほりに来てくださり、畑の木の下には原木椎茸も育てている。四季折々の行事や慣わしを継続し、毎日のドライブも日課であり、系列施設に訪問し、地域の方、系列ホームの方々と一緒に瑞宝太鼓の練習を楽しんでいる。ホームでも手作りの太鼓で練習されており、良いリハビリとなっている。日々の食事は手作りがほとんどで、調理専門の職員などが季節の美味しい料理を作られている。昼食にホットプレートを使用して、お好み焼きや焼きそばなどを職員と一緒に楽しまれ、花見をしながらのピクニックもあり、家族から「ここは施設ではなく、家ですね」などの嬉しい言葉をいただいている。ご利用者の日々の気分や症状に向き合い、毎日往診に来られる医師にも相談し、その時々之最善のケア（寄り添い）を行うとともに、ケア時の声かけを優しくするように努めている。代表等と一緒に話し合う機会も多く、管理者を中心に年代の異なる職員同士のチーム力を強化する取組みを日々続けている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取り組みの成果 ↓ 該当するものに○印	項 目		取り組みの成果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、 不安なこと、求めていることをよく聴いており、 信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと 過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで 暮らしている （参考項目：38）	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業 所の理解者や応援者が増えている （参考項 目：4）	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで 生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）	○ 1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ 出かけている （参考項目：49）	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている （参考項目：30,31）	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に 応じた柔軟な支援により、安心して 暮らせている （参考項目：28）	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者一人一人が当たり前の生活ができるように全職員が理念を共有し、実践している。	開設時に作られた「老いても障害を持っても、当たり前に分らなく普通に暮らしたい」と言う理念を大切にされており、入職した職員にも理念を説明している。ご利用者と毎日の散歩や自宅周辺のドライブ、季節の花見を楽しまれ、畑作り、干し柿作り、食事作り等も一緒に行い、「当たり前に分らなく普通に暮らしたい」という理念を職員全員で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の神輿祭りに参加していたが、コロナの影響で中止になっている。神事のみは行われ、神主さんに施設に来ていただき、利用者にお祓いをしていただいた。	散歩の時に地域の方々と挨拶している。隣家の方から野菜や柿等の差し入れがあり、ホームからも手作りの饅頭をお返ししている。地域の消防団との防災避難訓練を行い、2023年度は口加高校の実習を受け入れ、一緒にレクやドライブを楽しまれた。法人内の放課後デイサービスの子供達との交流もあり、敬老の日には子供達が手作りのメッセージカードをプレゼントしてくださった。コロナ以前は保育園児との交流があり、地域神輿の立ち寄りやお話会、こども消防パレード見物、蔵めぐり等を楽しんでいた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活かしている	高校生の実習の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を職員会議で報告し、サービス向上にいかしている。	対面での通常開催をしている。「城下」にしありえ新聞を活用し、日頃の取組を説明しており、「にぎやかでよいですね」等のお言葉をいただいている。地域代表の方は隣家の方であり、日頃から地域情報を教えてくださり、ホームの取組みや行事報告、職員の研修報告とともに、災害対策や地域行事のあり方などの話し合いをしている。今後は更に地域の代表者の方々と連携し、地域の「今と今後」等の検討に繋げていければと考えている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者からの連絡はないが、代表の知り合いがいるので、情報はきいている。	南島原市の職員が運営推進会議に参加していただき、疑問点がある際は管理者が相談している。コロナ・インフルエンザ等の感染が多い時期は、南島原市から感染情報がFAXで届いている。認定の更新時は南島原市に申請書を提出し、広域から調査員の訪問がある。地域包括の職員とも空き状況等を情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や研修等をおこない、身体拘束について職員間で共有し、ケアにあたっている。	ご本人の性格や生活背景、病状等を理解し、ご本人の想いに寄り添った生活になるように努めている。その時々のお気持ちにに応じて職員が交代してケアし、気分転換で散歩やドライブにお連れしている。法人で身体拘束廃止・虐待防止委員会を開催し、各事業所（ホーム等）から職員が参加している。管理者や代表が職員のストレスや悩みを理解し、最善策を検討している。接遇チェックも行い、各職員の意見、自己評価も集約しながら改善に向けた取り組みを行っている。コロナ前は法人内の身体拘束廃止委員会が施設訪問チェックを行い、ご利用者への聞き取りも行われていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から管理者・全職員で注意し身体拘束について疑問に感じたら、その都度話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政担当の方からお話を聞きかきがあり理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表・管理者が詳しく説明し、理解納得してもらうように努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時に、意見などをおたずねしている。	市内の感染状況に応じて、玄関先や窓越しの面会を行ったり、電話で情報交換を行い、体調や暮らしぶりを報告している。「城下」にしありえ新聞（2か月に1回）は写真もたくさん掲載しており、担当者からの手書きのお手紙も毎月郵送している。家族から「買い物に連れて行きたい」という希望があり、家族と一緒に外出される方もおられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議に代表が出席し、意見・要望を聞き出す。	代表、管理者のお人柄もあり、職員は意見を伝えやすい雰囲気で作られている。職員の要望で、日・祭日の手当てを付けたり、子育て中の職員の勤務時間を調整している。職員会議・各担当者会議（行事・防災・身体拘束・虐待廃止委員会等）を行い、職員個々に意見やアイデアを出し合い、役割を担っている。「城下」にしありえ新聞の作成に関する意見もあり、全職員での持ち回り制に変更するなど、職員の意見やアイデアを活かすようにしている。	職員は介護職としてプロの仕事を続けており、チーム力の成果も見られている。今後も職員の小さなストレスを共有し、改善できる方法を検討していく予定であり、身体拘束廃止委員の施設訪問を再開して職員のストレス度合いを確認したり、同年代の方の意見交換会を企画するなど、職員のストレスケアに関する更なる検討を行う予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や各担当手当、日曜祝日手当など、いろいろな手当てをつけてくださる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修での勉強会や、外部での勉強会の機会も作って下さっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦で交流の機会がない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報と、家族からの聞き取りを基に、安心して過ごされるようケアに努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族からの心配事、困っていることなどを聞きとり、信頼関係が保たれるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の希望や本人の今の気持ちを考え、良いサービスを提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事はさりげなく見守り、家事など一緒に行うことで、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の関係を見守りつつ、職員の思いも伝えながら、信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問の際には、ゆっくり過ごされるように支援している。	自宅周辺をドライブし、ご本人の安心に繋がっている。地元の馴染みの神社、山、海沿い等のドライブを楽しまれ、馴染みのスーパーに家族と行かれる方もおられる。知人の訪問時に窓越しで会話をされる方もおられ、職員が間に入り、会話がスムーズにできるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように職員がさりげなく会話の中にはいり、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、家族や担当者に情報を提示している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に添えるように努め、困難な場合でも出来る限りのことは支援している。	日々のお茶タイムや、居室や入浴時など、1対1でゆっくりと会話するようにしている。表情や行動、しぐさ等を観察し、思いや意向の把握に努めており、「どこかに連れていって」等の要望で季節の花見等を楽しまれている。「自宅を見たい」「チャーハンが食べたい」という方もおられ、叶えられるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報や本人からの話を基に、これまでの暮らしが継続できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	特に変化のあったことを別に記録し職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングや生活の中での気づきを話し合い、介護計画を作成している。	ご本人や家族の意向とともに、職員全員の意見を反映するように努めている。アセスメントは健康状態・精神状態・理解・行動力・羞恥心・記憶等・ADL・IADL・生活の質等を評価し、アセスメント要約表に「計画必要性度」を含めて記載している。精神状態に関してもご本人の思いなどを記載し、ケア内容に繋げている。歌、体操、歩行訓練等も行われ、洗濯物のしわ伸ばしや干し方を教えて下さる方もおられ、日々の役割を計画に盛り込んでいる。24時間の日課表に各活動の「できること」「留意点」も増やし、介護日誌の“キーワード”欄に計画内容を転記し、実践状況を記録している。	①今後もアセスメントに、「私の生活歴」「基本情報2（私の家族・親族、私の歴史・1日の過ごし方）」「基本情報3（なじみの暮らし方情報）」等を増やしていく予定である。 ②アセスメントの【項目3立ち上がり・移動動作等】のADLを更に細分化するとともに、「寝返り」「立位」「歩行」「移乗」等の詳細な能力と介助理由、各活動のご本人の要望を追記するとともに、アセスメント要約表に集約し、対応策も追記していく予定である。 ③介護計画の2表に「家族」等の役割を増やし、家族と一緒に計画の話し合いを行い、介護計画に活かしていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の特に大事なところは別紙に記入している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の状況にあった支援をさせていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦でも出来ることを見つけ出し実施していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望するかかりつけ医にしている。	法人の看護師（週1回）、菜の花クリニックの看護師（必要時）の訪問があり、ホーム内で点滴や喀痰吸引、カテーテル交換等を行うこともできる。毎日協力医の往診があり、緊急時にも対応して下さる。体調変化時や内科以外の通院介助も職員が行い、家族と受診結果を共有している。薬剤師が薬を届けてくださり、情報交換できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変時に連絡し受診したり主治医に往診をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には状況を尋ね、退院後も病院との連絡を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に看取り支援の説明は行っている。重度化も含め、家族や主治医、管理者で十分話し合い希望に添えるように支援している。	希望に応じた終末期ケアが行われている。医療の希望も把握し、24時間体制で代表や管理者、かかりつけ医、クリニックの看護師と連携できている。体調に応じて家族間の話し合いをしていただき、今後の方針を検討している。急変に備え、主治医や家族に前もって連絡がとれるようお願いしており、全職員に連絡がとれるようにしている。終末期は家族も毎日訪問し、居室で一緒に過ごされた方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議の時に話し合い急変時の対応など想定するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年6回以上の防災訓練の実施。消防署や地域消防団の協力参加していただいている。	2024年8月の台風時も停電を経験している。事前対策を万全に行い、代表が系列ホームの自家発電機等を複数持参し、適宜ガソリン注入をしてくださり、停電に対応することができた。災害時は法人内の多目的ホールに避難する場合もあり、その時々状況に応じて代表と密に対応策を検討している。2ヶ月毎に自主訓練を行い、毎年11月9日（119の日）に消防署・消防団・地域住民と夜間想定訓練をしている。防災委員がBCP（事業継続計画）を作成し、災害に備えて水・米・食料・電池・非常食・救急用品・防火頭巾等を準備している。浴室のリフォーム工事で倉庫が増設でき、今後も収納場所として活用する予定である。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どんな状況でも、利用者を尊重し声かけはゆっくりと丁寧にするように心掛けている。	ご利用者の事を話す場合は小声で話したり、自室で相談させて頂いている。身体拘束に繋がる言葉かけをしないように努め、「ちょっと待ってください」等の言葉の前に理由を伝えている。アセスメントに《生活上の羞恥心》の欄があり、配慮内容をチェックできるようにしている。トイレ誘導時や排泄介助時の声かけに留意し、入浴時には羞恥心に気を配り、個人情報管理も徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できるような場面をのがさないように心掛けている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどの ように過ごしたいか、希望にそって支援してい る	利用者優先を常に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	衣類など本人の好みを尊重しおしゃれがで きるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの 好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒 に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好みを把握し、いつも楽しい食 事時間を提供できるように支援している。	調理専門の職員が栄養バランスに配慮した 献立を考え、美味しい料理が作られてい る。調理担当者が休みの日は、皆さんで ちゃんぽん作りやホットプレートで好み 焼きや焼きそば等を楽しまれたり、配食 (週1)も利用している。ご利用者と一緒 に買物に行き、下ごしらえ(包丁で食材切 り、苟掘りやツツ取り、フキや野菜の皮む き等)、下膳、食器洗い、食器拭き、片付 け等を手伝ってくださる。行事の時などは お赤飯も楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習 慣に応じた支援をしている	ご利用者一人一人ずつの食事量と水分量の 把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	一人ひとりずつの力に応じた支援をおこな い毎食後口腔内の清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひと りの力や排泄のパターン、習慣を活かして、ト イレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っ ている	排泄表活用でトイレ誘導を行っている。	排泄が自立している方や布の下着(パッド) を着用する方もおられ、パッド等の使用も 個別に検討している。尿意・便意を把握 し、事前誘導や2人介助も行われ、快便に 繋がる方やパッドの枚数が減った方もおら れる。排泄時の見守りや介助が必要な方も おられ、介護計画にも記載し、日々のケア で実践している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品やイモ類のメニューで便秘解消に努めている。体操で体を動かし予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の利用者の体調や気分に合わせて支援している。	2024年夏、広い浴室と浴槽のリフォームが行われた。手すりも多く、個浴で、入浴しやすくなっている。毎日入浴できるようにしており、夏は週4回、冬は週3回ほど入浴している方が多い。お風呂好きな方が多く、入浴時は会話や歌を楽しまれ、菖蒲湯や柚子湯も行われている。できるところは、ご自分で洗われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、目的などは管理説明書で確認理解している。医療機関にも都度相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や好みを把握し、散歩やドライブなど気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに出掛けたり、近隣や公園での散歩を支援している。	天気の良い日は庭で過ごし、日光浴やお茶会、畑作り等を楽しまれている。人混みを避けて毎日ドライブを楽しまれ、季節の花見（桜・つつじ・梅等）、水汲み、西望公園ピクニック、島原初市などにお連れしている。ご利用者と握り飯やお弁当を作り、「みそ五郎公園」で食べたり、島原初市も楽しまれた。コロナ前に行われていた小旅行も企画しており、今後も楽しみを増やしていく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は行っていない。行事では金券を使い買い物できる楽しみを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を保ち、居室に写真や作品を掲示したりしている。	散歩の時に花を摘んだり、職員が花を持参してくださり、花好きな方が活けてくださる。系列施設で生け花会があり（月1回）、ホームに飾っている。冬は気温が下がるため石油ストーブを使用している。ストーブの周囲に囲いを作り、安全対策に努め、換気も適宜している。夏は窓の外にゴーヤを育て、日よけになっている。行事や外出の写真を貼り、会話のきっかけにしており、お雛様や鯉のぼり等を飾り、季節や月がわかるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	どの場所でも話したり過ごせるように、椅子を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から自由に持ってきていただき、本人が慣れたものを使用することで心地よく過ごせるようにしている。	居室の入口にご利用者の写真を飾っている。洋室と和室があり、周囲の山々が見える部屋もある。電動ベッドも4台あり、体調に応じてエアマットを使用している。箆簀やいす、時計、家族の写真等を置かれており、観葉植物も元気に育っている。居室の入り口に段差がある所もあり、ご本人が手すりを持って出入りしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に名前入りの写真を貼り各場所に大きな文字でわかるように表示している。		